

アセンション系のサイト

<https://aishanorth.files.wordpress.com/2012/01/the-manuscript-of-survival-part-61-70.pdf>

ハートの贈り物 2017 <http://blog.goo.ne.jp/narudekon>

サイト主 narudeko 氏による日本語翻訳文

元の URL <http://blog.goo.ne.jp/narudekon/e/ef716cb6a38a25c77951e384a7cf39a4>

以下、翻訳文

The manuscript of survival - part 68 5 January 2012 - 12:38pm

今日のメッセージは、ある人にとっては理解するのが難しい内容かもしれませんが。地球にこれから起こる変化を、科学的なアプローチで説明するからです。まずは、あなた方の科学者たちが長い間懸命に探し続けているが、なかなか見つからない、いわゆる神の粒子、ヒッグス粒子から始めましょう。痕跡を見つけたように思われていますが、彼らが組み立てた小仮説に基づいて、この小さな、しかし極めて活発な成分の構成を説明する堅固な証拠は見つかっていません。誤解しないで下さい。そのような粒子は存在します。しかし、彼らが探しているものとは全く違うのです。それは多くの点で、不可視のものを探す試みと言えます。普通の人間の目は、このようなものを見ることはできません。単にサイズが小さいせいではなく、エネルギーの量を正しく求める方法を知らないからです。

説明しましょう。これまで科学者たちは、原子核の中を調べてきました。そして、どんどん小さい物質へ進み、世界を構成する上でこれ以上小さいものは存在しないと思えるレベルまで、見つけました。しかし彼らは、それらの物質が発する光の一部分しか、検出できていません。我々の宇宙全体に広がる、見えない大量のエネルギーを、彼らがダークマターおよびダークエネルギーと呼んでいるのは偶然ではありません。それらの物質は、実際は検出できないことを、あなた方はよく知っています。その通りです。どのような方法によっても、それらを検出することも測定することも許されていません。ダークマターこそが、尽きることなく利用されているエネルギーの唯一の源だからです。それは根源的な永久機関であり、もし、悪の手に渡ったら、いえ悪の脳と言うべきですが、文字通りあらゆる面で大混乱を起こすでしょう。これは、脳によって理解されるものではないのです。何故なら、脳には大きな制約があるからです。人間は脳を、文明を進化させる崇高な考えを生み出す知識の座と考える傾向がありますが、まったく違います。脳は単に、人間を最低のレベルで機能させるための装置に過ぎないのです。とても傲慢に聞こえるかもしれませんが、以前にも説明しましたが、私たち人間以外の存在にとって知識とは、個人的に占有・保持するものではありません。それは、全員が全員の進化のために共有する情報の大海です。しかし、人間の墮落した精神にとっては、すべての知識は、己を豊かにすることを唯一の目的としてきました。しかも、望むらくは他人の犠牲の上で。そのため、核心部分の知識は独占してきました。特許を取って、最高額で売ることができれば、なお良いからです。もちろんこれは、一般論です。人間の脳は、最高に美しい美術作品や音楽を創り出す能力や、何かの世話をしたり、育んだり、協力し合う優れた能力も持っています。しかし、忘れないで下さい。人類を襲った災厄のほとんどは、まさに人間が作り出したものであることを。真実の知識の追求からではなく、欲望が支配する脳が考え出したものだということを。

もちろん、人類の抱える問題の解決方法を探して、飽くことなく真実を求める勇敢な魂も数多く存在しています。しかし、食物連鎖のトップに位置する者たちが、それを許すはずはありません。たとえ上手く発見したとしても、良くて捨て去られるか、せいぜい笑いにされるか、最悪の場合は殺されることさえあります。皆さんの多くが、もし正しく利用

すれば、人類を石油中毒の奴隷状態から解放することができる、ある種の発明がなされたという噂を聞いたことがあるでしょう。しかし、それらの発明はどうなったのか、疑問に思いませんか。それらは、大量の赤いテープに巻かれて書庫の奥に封印されてしまったのです。それらの発明が、自分たちの生業のどれほど邪魔になるかをよく知っている闇の手先によって、発明家たちは上手く口封じされてしまったのです。石油は、地球上を走り回っている、余りにも多い車の潤滑油です。石油の需要と供給こそが、これらの車輪を回しています。彼らの強欲装置全体が、石油に大きく依存しているので、石油を使い続けさせるためには何処までも行くのです。この井戸が涸れれば、彼らの血液であるお金の供給も涸れます。奴らの小さな爬虫類の脳は、彼らの金庫に加速しつつ流れ込む金の供給がなくなるという考えに、耐えられないのです。ここで、話は、小さな粒子の発見に失敗している科学者たちに戻ります。彼らが上手く組み立てた小さな仮説におけるたった一つのミッシング・リンク。掴まえどころのない、小さな粒子。それがなければ、方程式の解は見つけれないため、彼らは頭をかきむしっています。今すぐにも、そのさらなる痕跡が見つかるように祈っています。この物理学の聖杯探しには、正当な理由もなく、多額のお金がつぎこまれてきました。実際のところ、それは、非常に多くの賢い頭脳を間違った方向に向けさせている、上手に組み立てた誤魔化しのプロジェクトなのです。

ちょっと待って、我々は、その反対側を目指している、一握りの発明家を話題にしていたのではなかったですか？ ええ、そうでした。希望を持って下さい。あなた方の中に混じった光の者たちが、これまで隠されてきた多くの知識を、これらの男女の頭に植えつけることに成功しています。それらの知識は埋もれないように、“理性”の声として、彼らの頭の中で存在を主張し始めています。知っていますか、知識には活力があり、生命力もあることを。今、我々が言及している知識とは、All there is (創造主) から我々の尊敬すべき僚友を経て、あなた方の勇敢で輝ける魂を通じ、感受性のある数人の選ばれた科学者の精神と心に伝えられたものです。今、それらは根付いて、芽を出したところです。肥沃で、正しい種類の土に植えられたので、急速に成長し、近いうちに息を呑むほど素晴らしい花を咲かせることでしょう。その噂は、最初は、仲間内の小さな輪の中で広まります。スクリーンや試験管内に表れる実験結果は、説明すらできないような現象です。結果は疑問視され、実験が繰り返されます。しかし、結果は毎回、正確に一致し、信じる他はなくなります。研究者たちは喜びを爆発させ、続いて社会全体が驚いて耳を傾けます。大変な難産の末に産まれたこの業績は、あまねくすべての人々に知られ、古い教義は永遠に葬られることとなります。と同時に、永遠に続くように思われていた悪行、わずかな人間の深い深いポケットに吸い込まれていく金の流れも、断たれることとなります。連中が喜んでその収入を手放すとは思わないで下さい。しかし、この知性の革命を彼らが阻止できるとも思わないで下さい。これを阻むことは、不可能だからです。

目からうろこを落とし、古い障害となる考え方を捨て去る時が来ました。我々が長い間伝えてきた知識の種が、ようやくあなた方の世界の地面に落ち、成果を上げようとしています。CERNのスクリーンを飛び交う小さな粒子のささやきのみならず、全地球の研究室で起きている、一見無関係に見える事象全体から。闇の脳はもちろん騒動を起こして、これらの新発見すべてから得られる利益を横取りしようと企みます。しかし、従来のように、これらの発見に著作権を与え、私有財産として認めることは許されません。すべては、人類の進歩のためにのみ用いられるのです。もし、それらを力で奪い取ろうとすれば、非常に厳しい報復を受けるでしょう。他人を犠牲にして利益を得ようとする者がいれば、その眼前で、それは文字通り爆発してしまうでしょう。この話が非現実的に聞こえるのは知っていますし、近いうちにマスコミのヘッドラインを飾ることもないでしょう。しかし、信じて下さい。我々が新しい夜明けが来たと言う時は、知性を備えた新しい種類の人間が現れる時です。その種とは、自分が価値を認めるすべてのものを、全員と共有し、一握りの金との交換に応じたりはしない者たちです。近代史の中で初めて、大発見を成し遂げ、かつ

真に高潔な精神が現れるのです。正確に言えば、彼らは腐敗していないからこそ、大発見を許されるのです。それが、今この時に起こるとするのは偶然ではありません。ダークマターに関する知識の貯蔵庫はこれまでもずっと存在していましたが、あなた方が覚醒のレベルを十分に上げた今だからこそ、あなた方の科学者が、その扉を叩くことが許されるのです。あなた方が発見するものは、史上あなた方が目にしたあらゆるものの中で、最も闇からは遠いものです。最も純粋な魂、最も純粋な心だけがアクセスを許されるのであり、偽装して近づく者はたちまちのうちに、それ以上進むのを阻まれます。ですから、安心して下さい。このプロセスにおいて開発されるものは、事態を悪化させる方向で用いられることはなく、あなたにも、あなたの大切な小さな地球にも、何ら害を及ぼしません。未来へようこそ、親愛なる者たちよ。これから、どんどん明るさが増してゆきます。皆さん全員が、カーテンの向こうから漏れる光を見られるように希望しています。そして、我々は、あなた方が決断するのは、単なる時間の問題であることも知っています。カーテンを開けて、光をあふれさせる、その時を。